



仕訳

使い方

- 画面をクリックするとプログラムが進んでいきます。
-  をクリックすると次のページに進みます。
-  をクリックすると前のページに戻ります。
- ページ数は右下に表示されています。

目次

1. 勘定
2. 借方・貸方
3. 仕訳とは
4. 資産
5. 負債
6. 資本
7. 資産・負債・資本と
貸借対照表
8. 収益
9. 費用
10. 当期純利益
11. 当期純損失
12. 仕訳の方法
13. まとめ

1. 勘定

仕訳の説明に入る前に、仕訳に使う道具を説明するよ。
まずは、「勘定」という簿記の世界での呼び方についてだ。

例えば、ビルであろうと倉庫であろうと、両方とも「建物」と呼んだり、
お金のことを「現金」と呼んだりする。

帳簿をつける意味の一つは「整理すること」だから、ある程度まとまった
概念で付けておく方が都合がいいんだ。

例えば、小遣い帳には「昼食代 ¥800」と書けば十分役立つわけで、
いちいち「サバの味噌煮定食・ご飯大盛り」と書く必要はないよね？

その「建物」「現金」といった簿記の世界で決まっている名前のことを
「勘定」というんだ。

ちなみに、英語で勘定のことを「account」と言うので、
略して「a/c」と書くことがある。



2. 借方・貸方

貸借対照表や損益計算書、そして勘定でも出てくることなんだけど、左側を借方、右側を貸方という。

(借方) 損益計算書 (貸方)

費用 60,000	収益 100,000
当期純利益 40,000	

(借方)	現金	(貸方)
①売上 100,000		
②借入金 40,000		

貸方・借方という呼び方は現在では特別な意味を持っていないんだけど、世界共通の呼び方なので一応それに従っているんだ。

だから、理屈は考えないで、
「左側は借方、右側は貸方と呼ぶんだ」
と考えていいんだ。



3. 仕訳とは

さて、準備が整ったところで、仕訳について説明していこう。

仕訳とは、
日々数多く行われる取引を、勘定記入のルールに従って借方と貸方に区分して記録すること
と言える。

仕訳に出てくる勘定は資産・負債・資本・費用・収益の5つに分けられるんだ。



(借方)	貸借対照表	(貸方)	(借方)	損益計算書	(貸方)
資産 100,000	負債 40,000		費用 60,000	収益 100,000	
	資本 60,000		当期純利益 40,000		



3. 仕訳とは

(借方)	貸借対照表	(貸方)	(借方)	損益計算書	(貸方)
	資産 100,000	負債 40,000		費用 60,000	収益 100,000
		資本 60,000		当期純利益 40,000	

これから説明していく中で、
「**資産の増加は借方(左側)に書く**」
などと言うが、この記入の方法は**ルールなの必ず覚えること!**

かのゲーテは簿記を「**人類が発明した最も美しいものの一つ**」
と言っているんだけど、それはこの仕訳のルールがその根幹にある。
500年以上前に発明された簿記なんだけど、根幹の部分では、
現在でも全く変わっていないんだ!
では、具体的に見ていこう!



4. 資産

「減少」はすでにある資産が減少することなので、常に借方が大きい。意味を考えてみて！

よって、貸借対照表の借方に来る

(借方)	貸借対照表	(貸方)	(借方)	資産	(貸方)
	資産 100,000	負債 40,000 資本 60,000	増加(+)		減少(-)

資産は将来受け取れる権利(これを債権という!)と、ものと言うことができる。

資産に属する勘定科目の増加は借方(左側)に、減少は貸方(右側)に記入する。
これはルールなんだ！

次に、資産に属する勘定を紹介する。



4. 資産

1. 現金
紙幣や硬貨の他にも、すぐに現金に換えられる小切手を受け取ったときなども現金勘定で扱うんだ。
2. 当座預金(とうざよきん)
現金を持ち運ばなくても相手に支払いが出来る預金
3. 売掛金(うりかけきん)
いわゆる「ツケ」のことだ。商品を販売してお金を後で受け取る取引をした場合は、売掛金勘定を使う。
4. 受取手形
取引相手が「～までにはお金を払います」と約束した証書だ。
いわゆる約束手形だね。
5. 貸付金
お金を貸したときに使う勘定。そのままだね。
6. 建物
ビル・建物・店舗などに用いる勘定だ。
7. 有価証券
株券・社債などに使う。



4. 資産

(借方)	貸借対照表	(貸方)	(借方)	資産	(貸方)
	資産 100,000	負債 40,000 資本 60,000	増加(+)		減少(-)

主な資産勘定を紹介したけど、全て
将来受け取れる権利(これを債権という!)と、もの
というのに当てはまってたでしょ?

- 将来受け取れる権利
売掛金、受取手形、貸付金
- もの
現金、当座預金、有価証券、建物



5. 負債

(借方)	貸借対照表	(貸方)	(借方)	負債	(貸方)
	資産 100,000	負債 40,000		減少(－)	増加(＋)
		資本 60,000			

負債は
将来支払わなければならない義務(これを債務という!)
のことだ。

負債に属する勘定科目の増加は貸方(右側)に、減少は借方(左側)
に記入する。

次に、負債に属する勘定を紹介するよ。



5. 負債

1. 買掛金(かいかけきん)
いわゆる「ツケといて～」とこちらが言った状態の勘定。
商品を仕入れるときに使う。
2. 支払手形
「～までに支払います」という取引をしたときに使う勘定。
3. 借入金
その名の通り、お金を借りたときに使う勘定。

他にもあるけど、3級ではこの3つが特によく使われる。



5. 負債

(借方)	貸借対照表	(貸方)	(借方)	負債	(貸方)
	資産 100,000	負債 40,000	減少(－)		増加(＋)
		資本 60,000			

主な負債勘定を紹介したけど、全て
将来支払わなければならない義務
に当てはまっているのを確認して欲しい！

買掛金・支払手形・借入金のどれも、その場で払うお金を「後のばし」
にしているよね？
ということは、**将来支払わなければならない**ということだね！
『借りたものは返す』ということだ。



6. 資本

(借方)	貸借対照表	(貸方)	(借方)	資本	(貸方)
	資産 100,000	負債 40,000			
		資本 60,000	減少(－)		増加(＋)

資本は商売を**はじめたときのお金**と**儲けの蓄積**を表す。

資本に属する勘定科目の**増加は貸方(右側)**に、**減少は借方(左側)**に記入する。

次に、資本に属する勘定を紹介するよ。



6. 資本

日商簿記3級で扱う資本勘定は、「**資本金**」だけだ。

上級になると、資本はとても複雑になっていくんだけど、個人商店中心の3級では資本金しか出てこない。

資本金とは、会社が営業活動をするための元手のことだ。

つまり、商売をするときに、その店主が現金で出資したものを資本金という。

また、**店を出た儲けや損も、最終的には資本金に組み込まれる**んだ。資本金は言ってしまうと「自分のお金」なのだから、がんばって稼いだ分は自分のお金になるのは当たり前だね。

次に、違う角度から資産・負債・資本を見てみよう。



7. 資産・負債・資本と貸借対照表

現金、貸付金
などの
ものと債権

(借方)	貸借対照表	(貸方)
資産 100,000	負債 40,000	
	資本 60,000	

借入金などの、
支払い義務

資本金という
元手

貸方の負債・資本はお金の調達源泉、
借方の資産はそのお金をどういう状態で持っているか
を表しているんだ！

負債は他人資本、資本は自己資本と言われ、
おおざっぱに言うと負債は一時的な借金、資本は自分(達)が出した
お金と言うことができる。

8. 収益

(借方)	損益計算書	(貸方)	(借方)	収益	(貸方)
費用 60,000	収益 100,000		消滅(－)	発生(＋)	
当期純利益 40,000					

ここからの収益・費用は、儲けに関することだ。
まず収益とは、**儲けを増やす要因となるもの**のことだ。

収益は、**発生したときには貸方(右側)**、**消滅したときは借方(左側)**に記入する。

次に、収益の代表的な勘定をみていくよ！



8. 収益

1. 売上
商品を販売したときに使う勘定だ。
2. 受取利息
貸付金などの利息収入に使う勘定。
3. 受取配当金
他社の株を保持することでもらえる配当金
4. 有価証券売却益
有価証券の取得時と売却時の価額の差が、プラスの時の収益。
5. 固定資産売却益
土地などの固定資産の、取得時と売却時の価額の差が、プラスの時の収益。

このあたりが「儲け」を生むためのものだということをイメージしておいて欲しい！



9. 費用

(借方)	損益計算書	(貸方)	(借方)	費用	(貸方)
	費用 60,000	収益 100,000	発生(+)		消滅(-)
	当期純利益 40,000				

最後に費用だ。

費用とは、**儲けを減らす要因になるもの**のことだ。

費用は、**発生したときには借方(左側)、消滅したときは貸方(右側)**に記入する。

さて、次に費用の代表的な勘定を見ていこう！



9. 費用

1. 仕入
商品を仕入れたときに使う勘定だ。
2. 支払利息
借入金の利息を支払ったときに使う勘定。
3. 給料
従業員に給料を払ったときに使う勘定。
4. 有価証券売却損
有価証券の取得時と売却時の価額の差が、マイナスの時の勘定。
5. 固定資産売却損
土地などの固定資産の、取得時と売却時の価額の差が、マイナスの時の勘定。

全て儲けを減らすことだよな？

例えば、仕入の額が半分で済んだら、その分は儲けだったってわけ。
混乱しそうになったら、具体的に考えてみてね。



10. 当期純利益

(借方)	損益計算書	(貸方)
費用 60,000		収益 100,000
当期純利益 40,000		

ところで、さっきから出てきている「当期純利益」って気にならない？
実はこれは **収益－費用＝当期純利益** なんだ！
「資本」で説明した『儲け』とは、このことだと思っていい。

ここで勘のいい人は、
「収益－費用がマイナスになることがあるんじゃないの？」
とを感じるんじゃないかな？
その場合はどうなると思う？



11. 当期純損失

(借方)	損益計算書	(貸方)
	費用 100,000	収益 60,000
		当期純損失 40,000

答えはこうです！

当期純利益も当期純損失も、**収益－費用の差額**で出てくるものだと
いうことに注意して欲しい！

「資本」で説明した『損』とはこのことだ！

ちなみにこのような計算は決算時にするものだから、
日々の取引→仕訳
の流れの中には出てこないことも頭のスミに置いておいてね。



12. 仕訳の方法

では、実際に仕訳の問題をどのように解いていくか、解説するよ。

1. 取引内容を読む

- **どの勘定**を使うのか考える
- その勘定が資産・負債・資本・収益・費用のうち**どの要素**で、**借方・貸方のどちら**に書くべきか考える

2. 仕訳を書く

まずはこのような順番で考えていこう！

慣れてくると、1→2と直接すばやく考えられるようになるはずだ！

具体的にどのように考えながらやっていくのか見ていこう。



仕訳の具体例①

1. 銀行から現金 ¥200,000 を借り入れた。

現金

手元の現金が増えた
のだから、**資産の増
加**。よって借方(左
側)に記入

借入金

借入金という債務(あとで
お金を返す義務)を得た
のだから、**負債の増加**。
よって貸方(右側)に記入

2. (借方) 現金 200,000 (貸方) 借入金 200,000

仕訳の具体例②

1. A商事に現金 ¥100,000を貸し付けた。

現金

手元から現金がなくなるわけだから、**資産の減少**。よって貸方(右側)に記入

貸付金

貸付金という債権(あとでお金がもらえる権利)を得たのだから、**資産の増加**。よって借方(左側)に記入

2. (借方) 貸付金 100,000 (貸方) 現金 100,000

仕訳の具体例③

1. 現金 ¥ 1,000,000 を元入れした。

現金

手元の現金が増えたのだから、**資産の増加**。よって借方(左側)に記入

資本金

資本金が増えたのだから、**資本の増加**。よって貸方(右側)に記入。

2. (借方) 現金 1,000,000 (貸方) 資本金 1,000,000

仕訳の具体例④

1. 借入金 ¥50,000を現金で返済した。

借入金

現金

借金を返したのだから、**負債の減少**。
よって借方(左側)に記入

手持ちの現金が借金の支払いで消えてしまったのだから、**資産の減少**。よって貸方(右側)に記入

2. (借方) 借入金 50,000 (貸方) 現金 50,000

仕訳の具体例⑤

1. 商品を¥40,000で現金で仕入れた。

仕入

現金

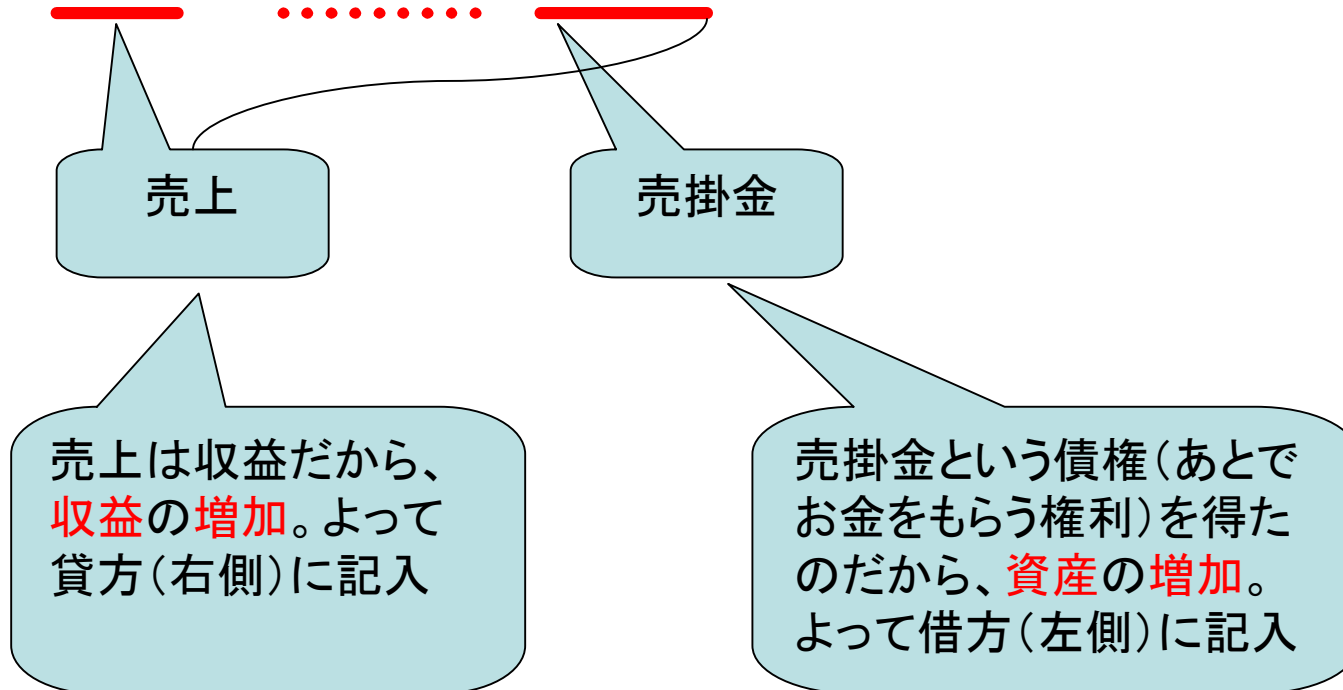
仕入は費用だから、**費用の増加**。よって借方(左側)に記入

現金で買ったのだから、**資産の減少**。よって貸方(右側)に記入

2. (借方) 仕入 40,000 (貸方) 現金 40,000

仕訳の具体例⑥

1. 商品を ¥70,000 で掛売り(かけうり)した。



2. (借方) 売掛金 70,000 (貸方) 売上 70,000

12. 仕訳の方法

ざっと具体例を出してみたけど、どうかな？
少しは具体的にイメージできるようになったかな？

考え出すと、疑問点やわからない点はたくさん出てくると思う。

たとえば、
「どうして『商品』という勘定を使わないで『仕入』という勘定を使うんだろう？」
などと思った人もいるかもしれない。

そういったことはこれからすこしずつ学んでいくから、
今回のところはだまかにイメージがつかめれば充分だ！



13. まとめ

では、復習をかねて、今回の内容をまとめておくよ。

(借方) 貸借対照表 (貸方) (借方) 損益計算書 (貸方)

資産 100,000	負債 40,000	費用 60,000	収益 100,000
	資本 60,000	当期純利益 40,000	

貸借対照表・損益計算書にもつながる5要素
資産・負債・資本・収益・費用についてみてきた。

仕訳はこの5要素に属する勘定を使って日々の取引を整理していく
ことであり、借方と貸方は必ずバランスがとれている。
(借方・貸方どちらかに片寄った取引は存在しない)



13. まとめ

(借方)	貸借対照表	(貸方)	(借方)	損益計算書	(貸方)
	資産 100,000	負債 40,000	費用 60,000		収益 100,000
		資本 60,000	当期純利益 40,000		

それぞれの代表的な勘定は

資産: 現金、当座預金、売掛金、貸付金、建物、有価証券 など

負債: 買掛金、借入金、支払手形 など

資本: 資本金

収益: 売上、受取利息 など

費用: 仕入、支払利息、給料 など

今日のところはこんなかんじかな！



終わりに

いや～、おつかれさまでした！
今回はかなりボリュームが合ったと思う。
はじめて簿記に触れているような人には少しわかりにくかったかな？
でも、実は今回が日商簿記3級の山場の一つだったんだ。

この時点では、「13.まとめ」の内容がざっとイメージできれば十分！

次回からは、具体的に仕訳について、一つ一つ見ていくよ。

まずは、「現金」についてから。

それでは！



制作者情報

- 簿記フラッシュ-日商簿記3級
<http://boki3.source-of-information.com/>
これまで作成したフラッシュと内容を公開しています。
- ご意見・ご感想等ございましたら、
info@source-of-information.com
までお寄せ下さい。